

クリエイターの 住まい

今回ご紹介するのは、タイプの異なる伝統的なイギリスのお宅が2軒と、デンマークのクリエイティブな要素が詰まった部屋。いずれも、モノへの愛着が溢れる空間であり、絶妙なコーディネートとなっている。センスが全面に表現された、心地良い部屋をご覧ください。





[特集] 窓と壁 Window & Wall

鍵は垂直面のコーディネート！

部屋の大部分を占める、窓と壁。カーテンやブラインド、ロールスクリーンなどのウインドウトリートメントや、壁の色やデザインによって部屋の雰囲気は大きくかわる。ここでは、ファブリックメーカーの最新テキスタイルや壁の上手な飾り方、また壁付け家具など幅広くご紹介。ちょっとしたことで暮らしはもっと豊かになる。

Photo=黒坂明美 KUROSAKA Akemi Styling=吉田佳世 YOSHIDA Kayo
Model=SARA Hiromi Text=口口編集部 LORO Magazine



1



3



2

光と風……

目に見えないこの事象とうまく付き合う

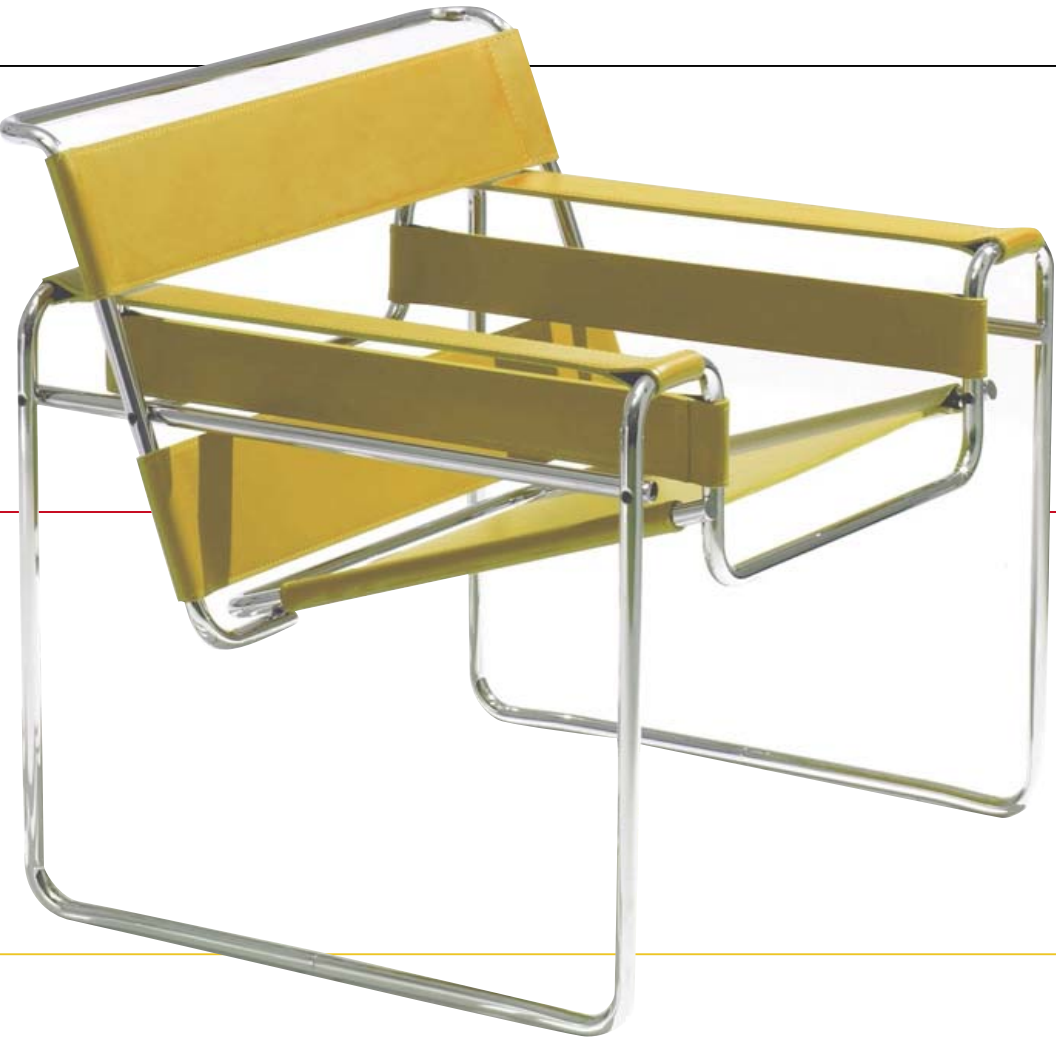
1.2.ボディースーツ価格1万7280円、靴下価格3024円
④ババコ、3.プラトップ価格9072円④ババコ、オーバー
オール価格1万8500円④マインドベンダーズクラシック



Live with the Germany ドイツと暮らす

ドイツのイメージは合理主義・機能主義と重ねることができる。これは造形美術学校のバウハウス（1919-1933）が作りあげたイメージといってもいい。この学校に深く関わった二人の椅子を紹介することから、ドイツ家具の特集を始めたい。

Text/LORO 編集部 LORO Magazine



Marcel **Breuer**
マルセル・ブロイヤー
1902-1981

Wassily Chair

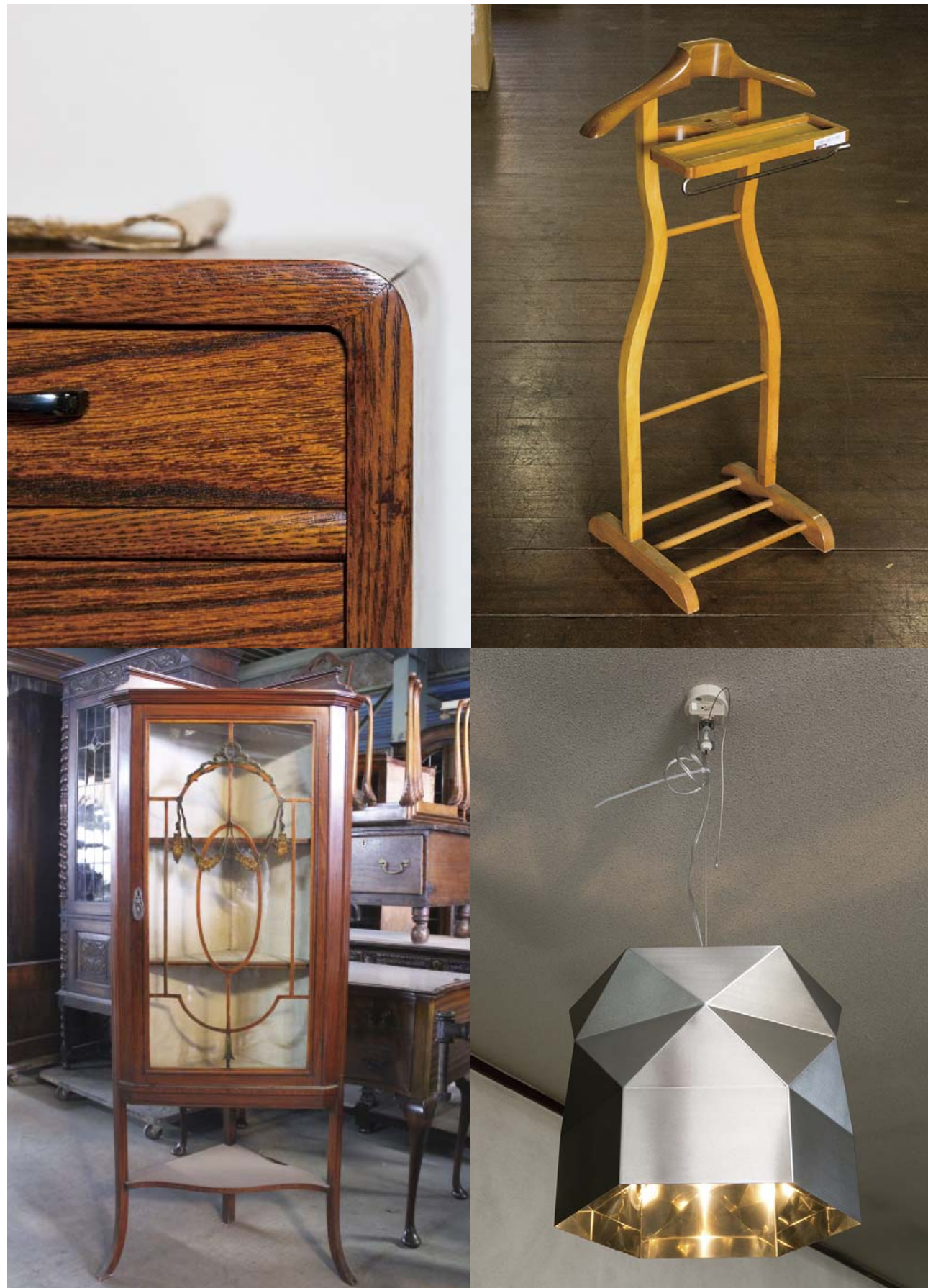
ワシリーチェア
バウハウス第1期生で、後に同校の家具工場の教師となったマルセル・ブロイヤーが、1925年に製作したラウンジチェア。スチールパイプの加工性と張地の張力を利用して作られた世界初の椅子。当時はあまりにも前衛的であり評価は得られなかったが、バウハウスで親交のあった抽象画家ワシリー・カンディンスキーが高く評価したことから、「ワシリーチェア」と命名された。価格29万8080円～
◎ノルストア 青山本店



Ludwig **Mies van der Rohe**
ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ
1886-1969

Barcelona Chair

バルセロナチェア
1929年、スペイン・バルセロナ万国博覧会のドイツ館の設計依頼を受けたミースが、スペイン国王アルフォンソ13世夫妻の臨席のためにデザインしたのがこのチェアだ。ミースの信念の「God is in the details（神は細部に宿る）」が表れた、ディテールを細部までにこだわることで完璧な形に仕上げられた作品。ニューヨーク近代美術館の永久コレクションとしても収蔵されている。価格82万800円～
◎ノルストア 青山本店



Japan Made, Japan Brand

駿府といえば、駿河の国の国府が置かれた場所。徳川の世ではこの地は“府中”と呼ばれました。現在の静岡県静岡市がその場所。天下統一を果たした家康の本拠がこの駿府で、晩年隠居したのもこの地でした。同市には浅間神社があり、徳川家の篤い庇護を受けていましたが、江戸末期に火災があり、その社殿復旧工事が徳川幕府直営工事として行われました。全国から優れた職人が集められ、やがて彼らは工事終了後もこの地に定住するようになります。中でも大工から派生した指物師^{さしもの}は腕が良く、その家具作りは昭和の高度経済成長期頃まで大変な隆盛を誇っていました。また、材木以外にも多品様な材料が集積する土地だったために、木工以外にも金属加工や織物、焼き物など多くの産業がこの地で育っていきました。今回はそんな静岡の伝統技術の流れを汲む名門家具ブランド、アンティーク家具ブランド、そして高度な金属加工技術で家具の世界に新しい息吹を吹き込むブランドのご紹介です。

【特集】

徳川の時代から
駿府には
腕のいい職人がいた
〈静岡県／静岡市〉



Photo=鶴田智昭 Tsuruda Tomoaki (WPP)
Text=Loro編集部 Loro Magazine
協力=静岡県家具工業組合、静岡市経済局商工部産業振興課

3. 山崎製作所 「三代目板金屋」



2. KENT



1. 森下木工所・家具屋校倉^{あぜくら}



アルフレックス

arflex

©アルフレックスジャパン

創業者が夢見た、イタリアの快適なライフスタイルを
ソファを通じて日本のリビング空間に表現



A・SOFA

リラックスするための考え抜かれたプロポーションは、誕生から30年を経た今日でも色褪せていない。現在では800mmと950mmの奥行サイズを設け、自分のライフスタイルに合ったモデルを選べるようになった。右は1986年にA・SOFAが誕生した当時のキービジュアル。パーツによるファブリックの張り分けや、クッションの自由なスタイリングは、その後のリビングデザインに一大トレンドを巻き起こした。写真上のセットは価格70万8480円～(正面)、価格44万1720円～(右)。

1969年に創業したアルフレックスジャパンが、創業15年を機に、新たな時代のソファ製作に着手。'86年に完成したのが、日本の住環境に適合した「A・SOFA」だ。それまで応接間にあつたお客さまを迎えるためのソファを捉え直し、家族全員が日常的に使用し、リラックスするためのアイテムとして再提案。それはイタリアのアルフレックスで修行を積んだ創業者、保科正氏が、イタリアの生活のなかで肌身感じた、ソファ本来の姿だった。

表面のシワは当然できるものとして敢えてソフトなファブリックを用い、ひと際、柔らかな表情を演出。雑然とクッションを置いてもサマになるように、好みの色やサイズを自由に選べることも新しかった。

また今もなお人気モデルであり続けている理由は、シェルとクッションによるシンプルなデザイン設計だ。モールドウレタンをベースとした作りは、へたりにくく、クッションをメンテナンスすることで半永久的に使い続けられる。普遍のデザインは、時代を経ても色褪せない凛々しさを備えていた。

2015年には、川崎の物流センターの一角に、メンテナンスのための工房を設立。あらゆるトラブルにも可能な限り対応するべく、万全の体制を整えている。

[ソファ編]
本物を知る

家具には、作り手の思いが込められている。その思いとは、家のなかで生み出されるドラマの演出である。「家族との団欒」「気の置けない友人を招いた楽しいひと時」を生み出すために、ソファがいかにあるべきか。そこから発想された製品コンセプトが導き出すディテールには、必ず理由があるのだ。逆に、機能を宿したデザインには、本物だけの、研ぎ澄まされた美しさがある。

Text= 土田貴史 TSUCHIDA Takashi

旭川ファクトリー

修業時代の保科さん



①イタリアで修行を終えた保科氏は、日本におけるデザイン権、製造権を与えられ、アルフレックスジャパンを設立。②③2008年には旭川ファクトリーを立ち上げ、ソファの製造拠点をここに集約した。併設のショールームでは、ソファの代表モデルを展示。予約制で見学を受け付けている。

テクニカルサービス



before



after

メンテナンス工房では、廃番も含め、カバーの新調はもちろん、ダメージを受けたシートクッションの交換や、部分補修なども受け付けている。